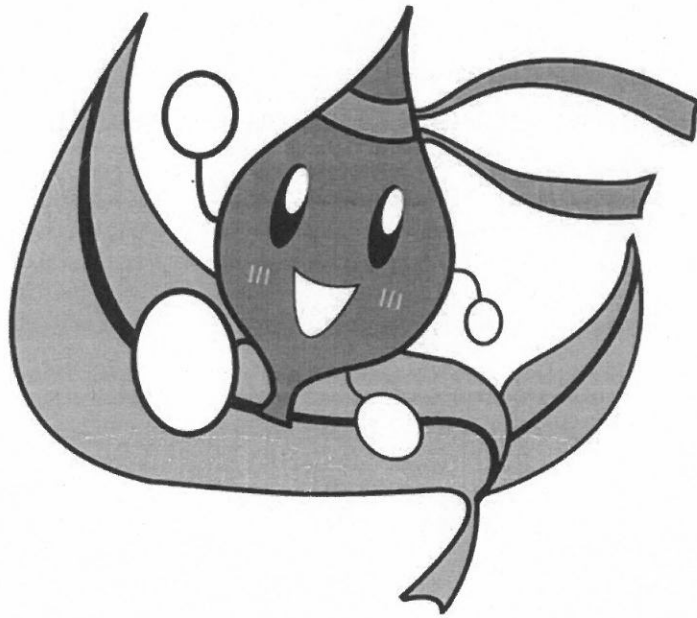


平成29年度

# 宇治市小中一貫教育についてのアンケート

報告書概要版



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

平成29年10月

宇治市教育委員会

## I 実施概要

### 1 目的

小中一貫教育をはじめとした本市学校教育の推進及び今後の教育施策の参考に資するため、学校教育に関する児童生徒、保護者の意識や意向、学校の状況などについて把握するとともに、これまでの調査の結果をもとに経年比較を行う。

### 2 対象

- (1) 宇治市立全小学校 第5～6学年の各学年1クラスの児童と保護者  
ただし、宇治小学校では、第5～6学年の全クラスの児童と保護者
- (2) 宇治市立全中学校 第1～3学年の各学年1クラスの生徒と保護者  
ただし、黄檗中学校では、第1～3学年の全クラスの児童と保護者
- (3) 宇治市立全小・中学校（小学校22校、中学校10校）

回答数	児童・生徒	計	2,643	名
	保護者	計	2,231	名
	学校	計	32	校

### 3 実施時期

平成29年6月21日（水） ～ 7月7日（金）

※中学校については、一学期末テスト終了後に実施

### 4 設問項目

- (1) 小中一貫教育のねらい・取組について [6項目]  
(保護者、学校)
- (2) 小中一貫教育への意識について [3項目]  
(児童生徒、保護者、学校)
- (3) 中学校入学や学校生活に係る不安・悩みについて  
(小学校5～6年児童、中学校1～3年生徒)

## Ⅱ 結果

### 1 意識について

児童生徒の「児童生徒交流への意識」と「教科担当についての意識」については、肯定的回答割合が、約80%超と高い数値となっています。「一貫教育への意識」について、肯定的回答割合が85%と増加したのは、今年度から質問文を変えたためと思われます。

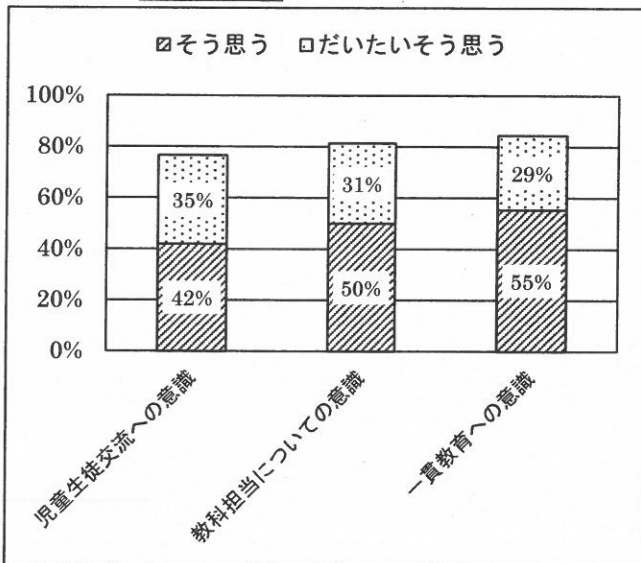
「分散あり」と「分散なし」を比較すると、児童生徒については、どの項目にも差異は認められません。これは、各中学校ブロックの取組の成果であると思われます。

保護者の「児童生徒交流への意識」と「教科担当についての意識」についての肯定的回答割合は、児童生徒同様、約80%~90%と高い数値となっています。

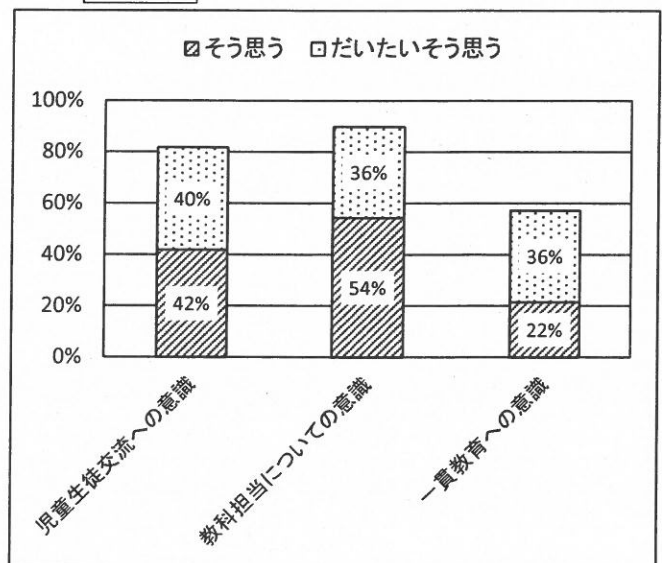
しかし、「一貫教育への意識」についての肯定的回答割合は、57%と昨年とほぼ同様です。この項目では「わからない」と回答した保護者も多く見られることから、今後も、保護者の理解を得る取組が必要であると考えられます。

#### 肯定的回答割合の項目別比較

##### 児童・生徒

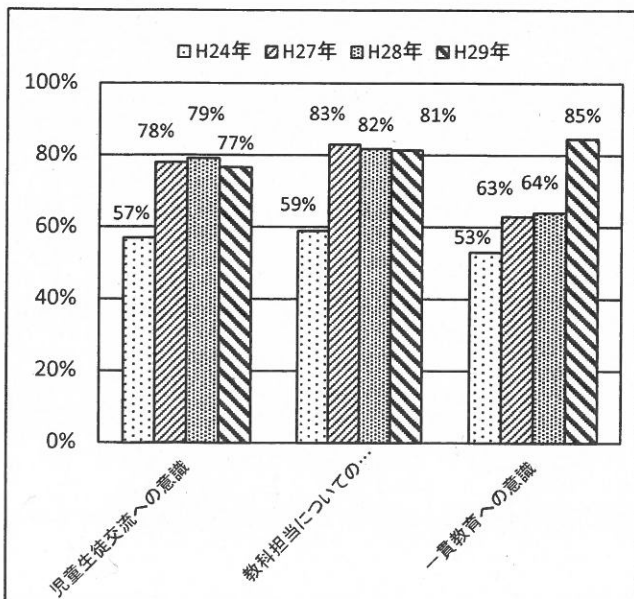


##### 保護者

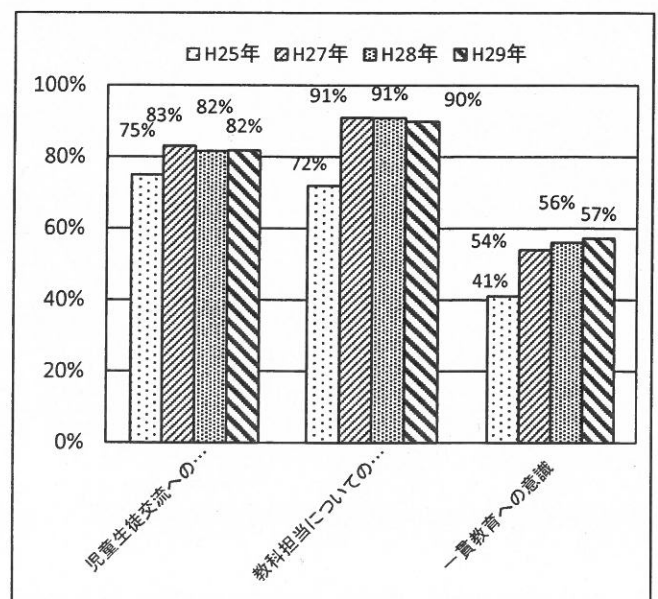


#### 肯定的回答割合の項目別比較

##### 児童・生徒



##### 保護者



## 2 不安・悩みについて

### <小学校5年生、6年生>

「5、6年生」とも、約半数の児童が「不安・悩み」があると答えています。項目別では、いずれも「勉強」「定期テスト」「友達関係」「先輩」となっています。

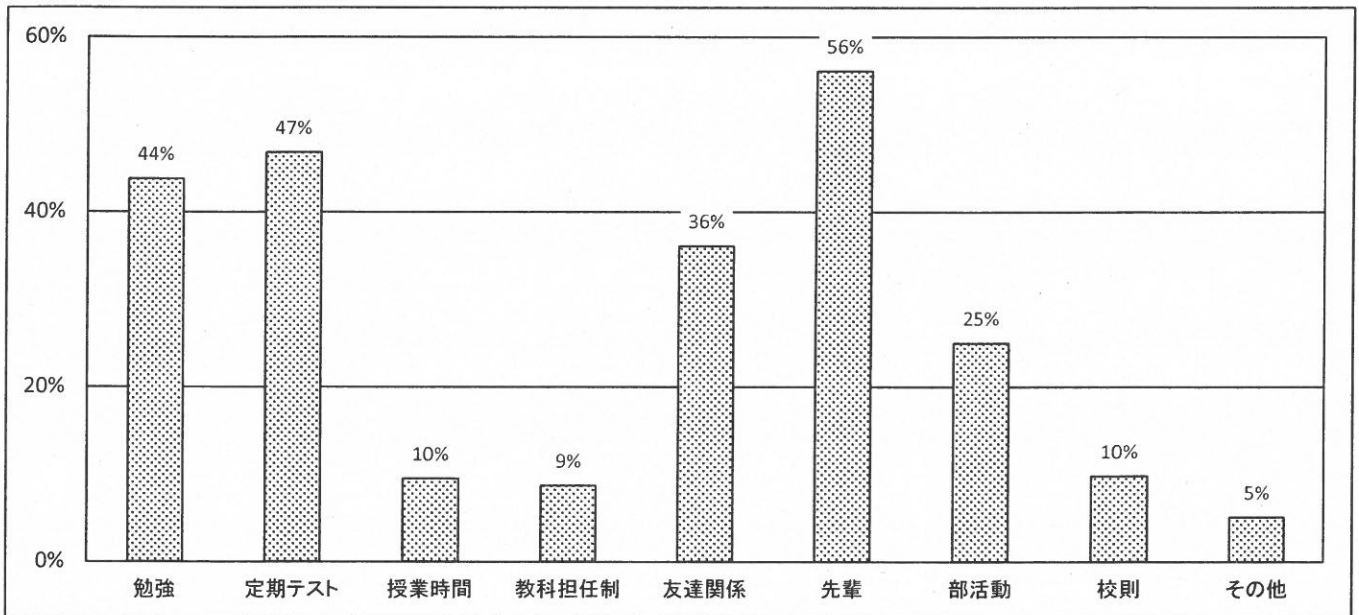
「分離型」では約半数の児童があると答えていますが、「一体型」の児童では約4分の1の児童にとどまっています。項目別では、全体の傾向とは異なり「一体型」においては「友達関係」「先輩」での「不安・悩み」が少なくなっています。これは、「一体型」の特徴を活かした宇治黄檗学園の様々な取組の成果であり、人間関係での悩みが少ないことで、勉強や定期テストについて関心が向いているものと思われます。

「不安・悩み」がある児童は、「分散あり」が「分散なし」より少し多くなっています。項目別では、あまり差は認められません。

### 不安・悩みがあると回答した児童に対して

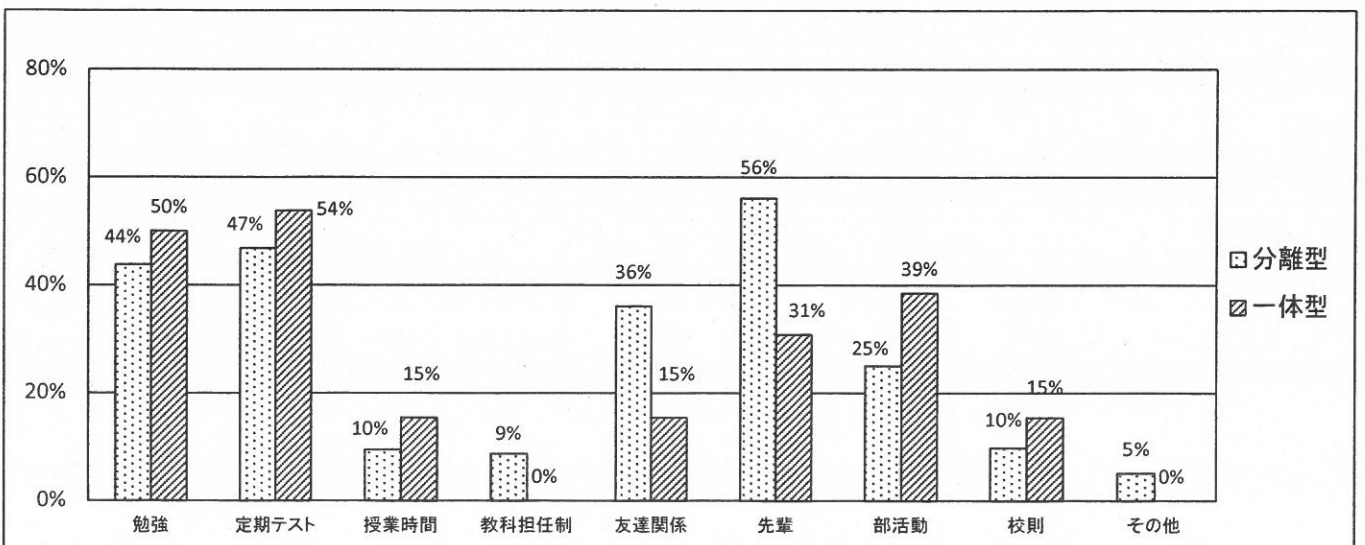
どのようなことに不安・悩みがありますか。(3つまで。1つでも2つでもいい)

#### 6年生



### 分離型と一体型の比較

#### 6年生



＜中学校 1 年生＞

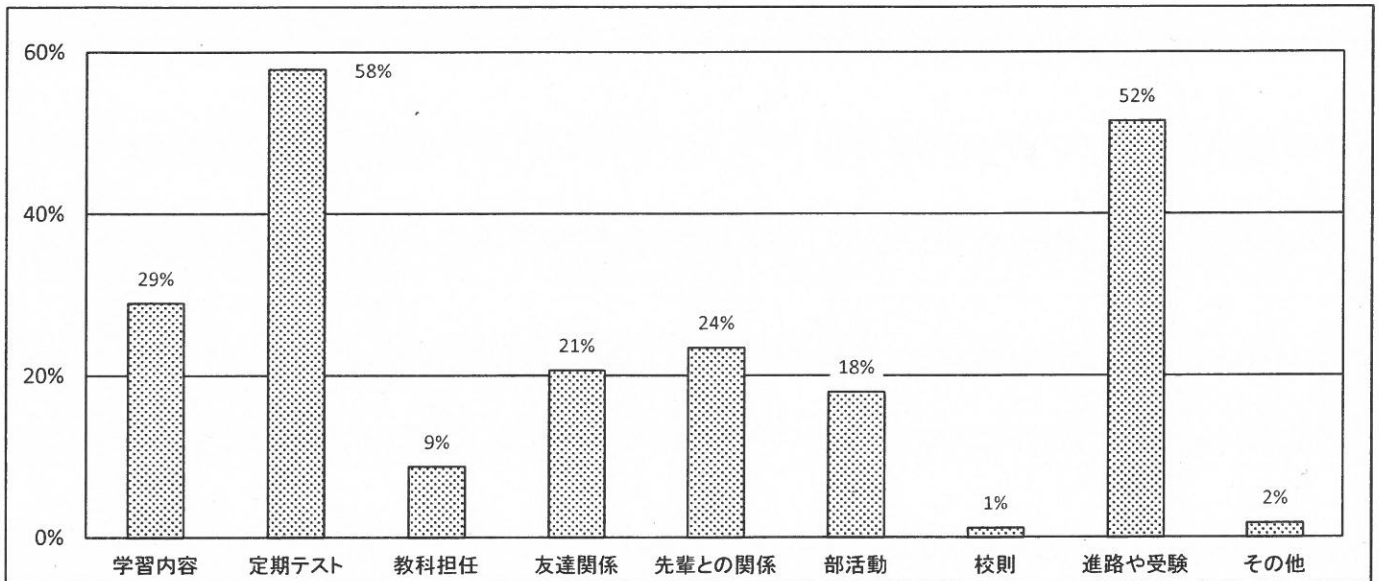
「今、学習や生活などで不安・悩みはありますか」の設問に、約4分の3の生徒がないと回答しています。「2、3年生」とも、ほぼ同じ割合となっており、スムーズに中学校生活になじめているものと思われます。これは、生活面（友達関係、部活動）に関する悩みがある生徒が少なく、学習や進路について考えている生徒が多いという状況にも表れています。

「一体型」は、「不安・悩み」のある割合が「分離型」より少し少なくなっています。項目別では、「一体型」は、「分離型」に比べ、「友達関係」「先輩との関係」等の人間関係での比率が低くなっており、「小学校5、6年生」と同じような特徴が見られます。

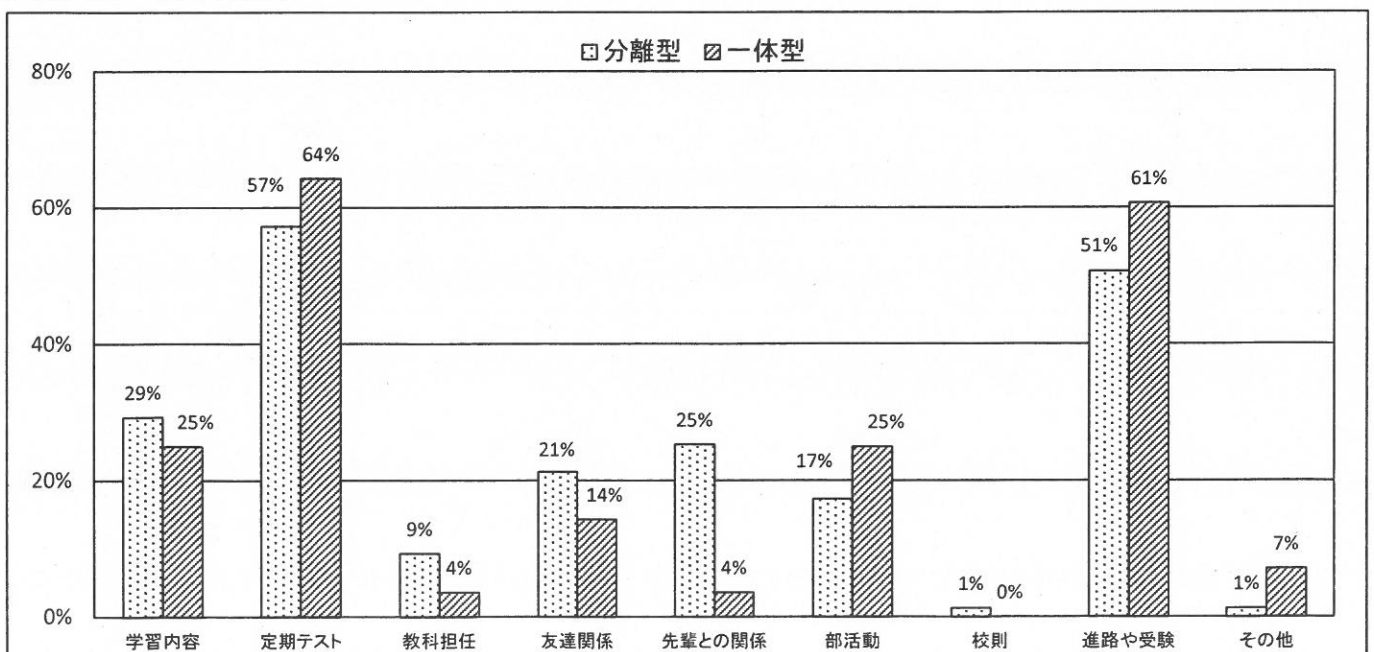
「分散あり」は、「分散なし」より「不安・悩み」のある割合がやや多くなっており、項目別でも違いが認められます。「分散あり」の生徒は、「分散なし」の生徒より「友達関係」「先輩との関係」の割合が高くなっています。その関係で、他の項目では、「分散なし」の生徒の割合が高くなる傾向があります。

**不安・悩みがあると回答した生徒に対して**

どのようなことに不安・悩みがありますか。（3つまで。1つでも2つでもいい）



**分離型と一体型の比較**



## <中学校 2、3年生>

「今、学習や生活などで不安・悩みがありますか」の設問に、「2年生、3年生」とも、1年生と同じように約4分の3の生徒がないと回答しています。項目別では、2年生が「成績」「進路」「部活と学習」「将来」の順で、3年生が「進路」「成績」「将来」「部活と学習」の順となっており、各学年の特徴が表れていると思われます。

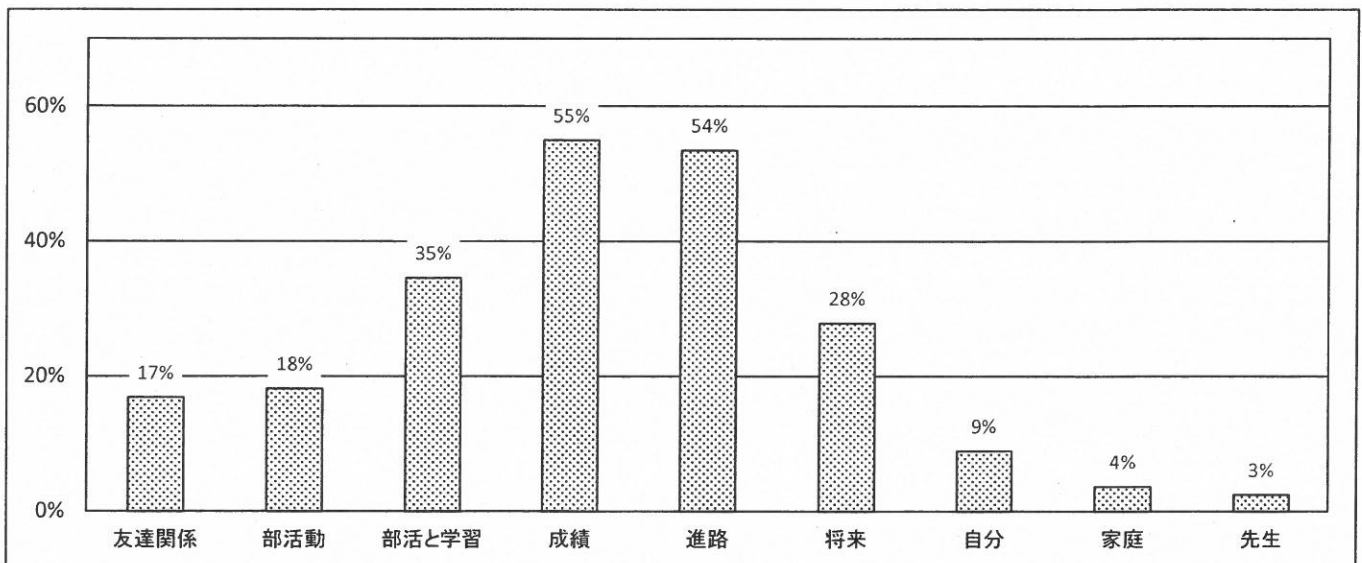
「不安・悩み」がある割合は、「分離型」で2年生が約30%、3年生が約26%である一方、「一体型」では2年生が約19%、3年生が約18%と低い数値になっています。これも、「一体型」の系統的な指導の特徴の表れと考えられます。項目別では、「一体型」の生徒は、2年生で「進路」「成績」などに「不安・悩み」があるとしていますが、3年生では、これらの項目が「分離型」に比べ低くなっています。

一方で「家庭」「自分」「友人関係」が、「分離型」の生徒より多くなっています。「進路」という目の前のことだけでなく、「生き方」という、思春期の特徴的な「不安・悩み」が「一体型」の生徒の方に、早く表れているとも考えられます。

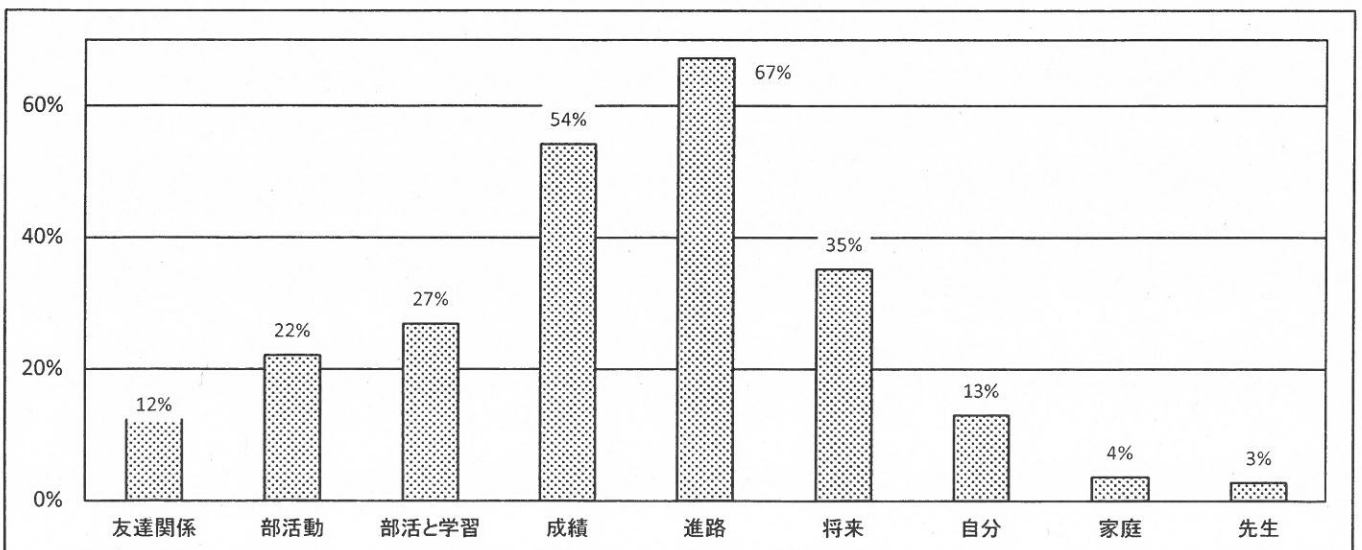
### 不安・悩みがあると回答した生徒に対して

どのようなことに不安・悩みがありますか。(3つまで。1つでも2つでもいい)

#### 2年生



#### 3年生



### 3 「不安・悩み」の軽減に役立った取組について

「小学生の時に不安・悩みだった時もあったが、その後、不安・悩みが小さくなったり、なくなったりしたことがありますか」の質問に対して、4割の生徒が「ある」と回答しています。

「小さくなったり、なくなったりした悩みは何ですか」の質問では、「勉強」「定期テスト」「友達関係」「先輩との関係」「部活動」があげられています。様々な取組が、小学6年生の調査で多かった「悩み・不安」の解消に効果的であったということがうかがわれます。

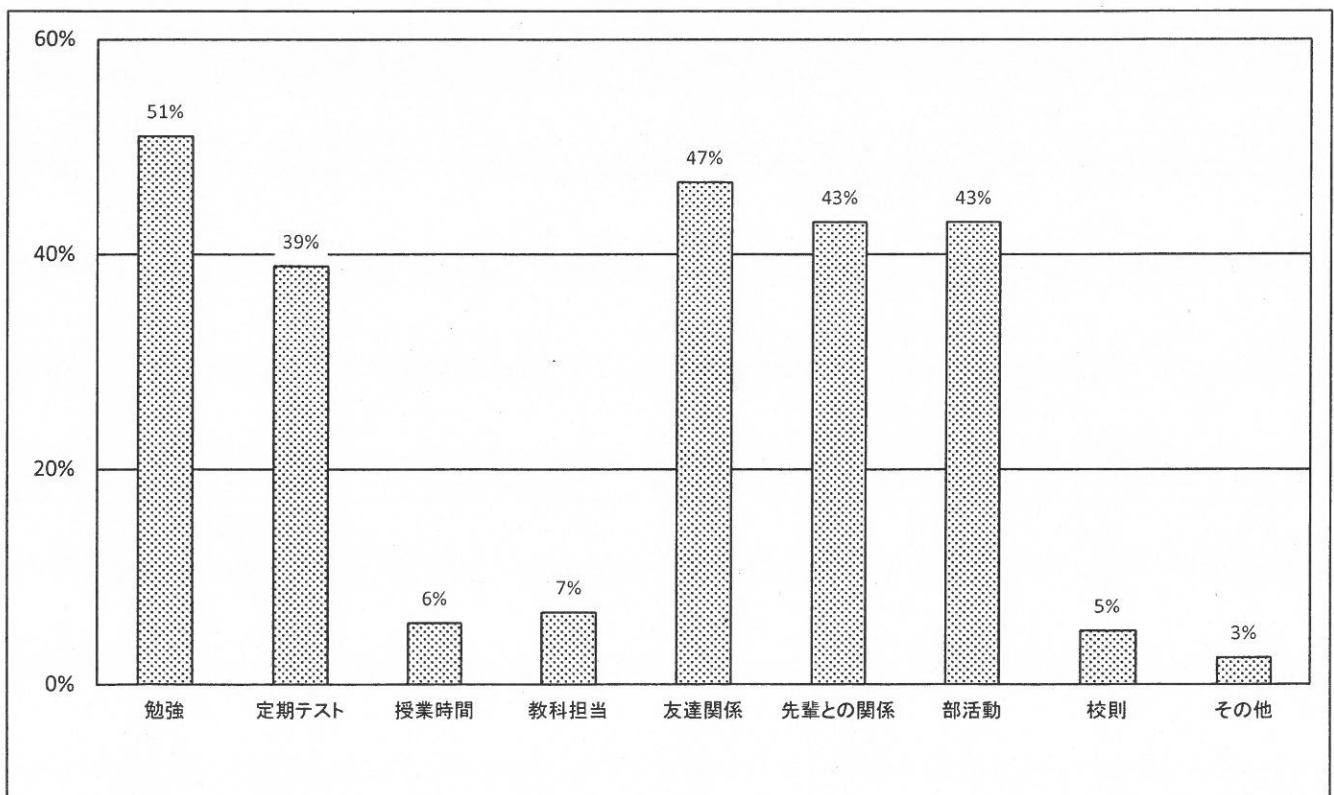
「どのような経験が、中学校入学時の不安・悩みが小さくなったり、なくなったりすることにつながったと思いますか」の質問では、「中学校体験入学で中学校生活の説明を聞いて」「中学校体験入学で授業体験をして」「中学校体験入学で部活動体験をして」「中学校の先生の授業を受けて」を、それぞれ約3割の生徒があげています。「中学校体験入学」「小中連携教員等による小学校での授業」は、直接児童が中学校での生活を実感できる機会として、「不安・悩み」の解消につながっていると考えられます。

「一体型」の生徒の回答は、「部活動体験」「中学校への行事への参加」が分離型の生徒に比べ多くっており、これは、一体型という特徴を活かした取組が「不安・悩み」を解消する機会となっていると思われます。

また、「分散あり」と「分散なし」の回答を比較すると、「中学校体験入学で中学校生活の説明を聞いて」「中学校体験入学で授業体験をして」「中学校体験入学で部活動体験をして」「中学校の先生の授業を受けて」の差は顕著になっています。これは、「分散あり」の児童の方が、「分散なし」の児童より、「体験入学」「中学校の先生の授業」の体験が、中学校での生活の情報を得る貴重な機会となっていることを示していると思われます。

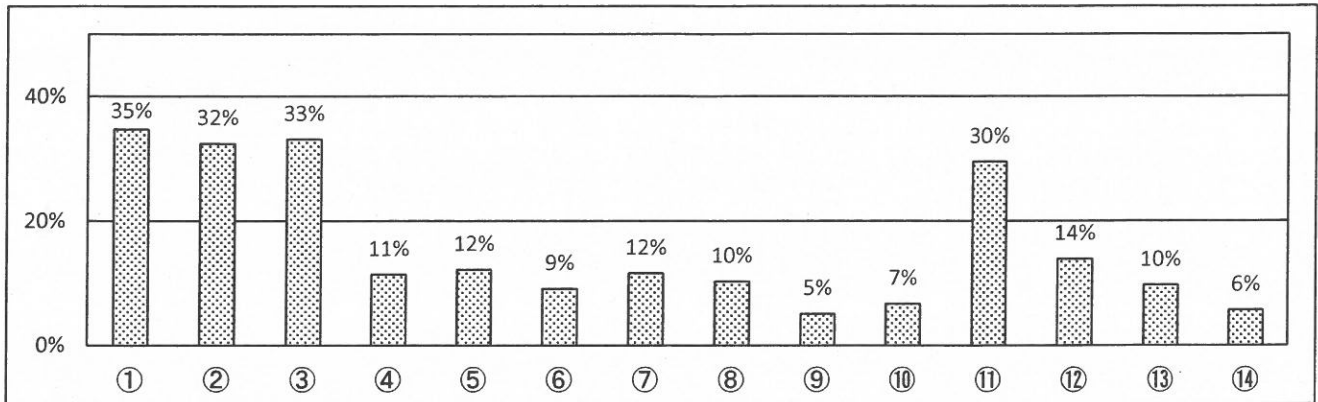
#### 不安・悩みが小さくなったり、なくなったことがある回答した生徒に対して

小さくなったり、なくなった悩みは何ですか。(3つまで。1つでも2つでもいい)

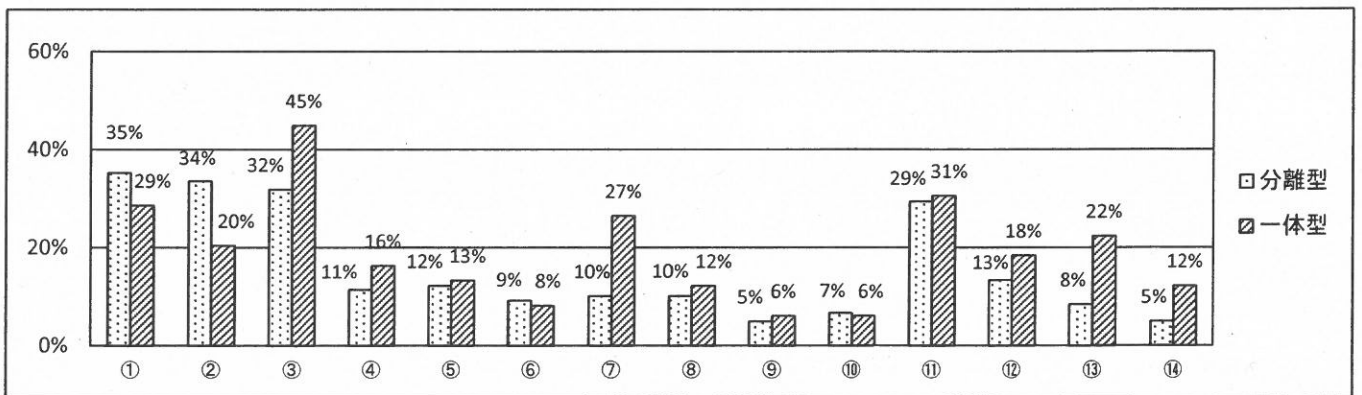


**不安・悩みが小さくなったり、なくなったりすることにつながったもの**

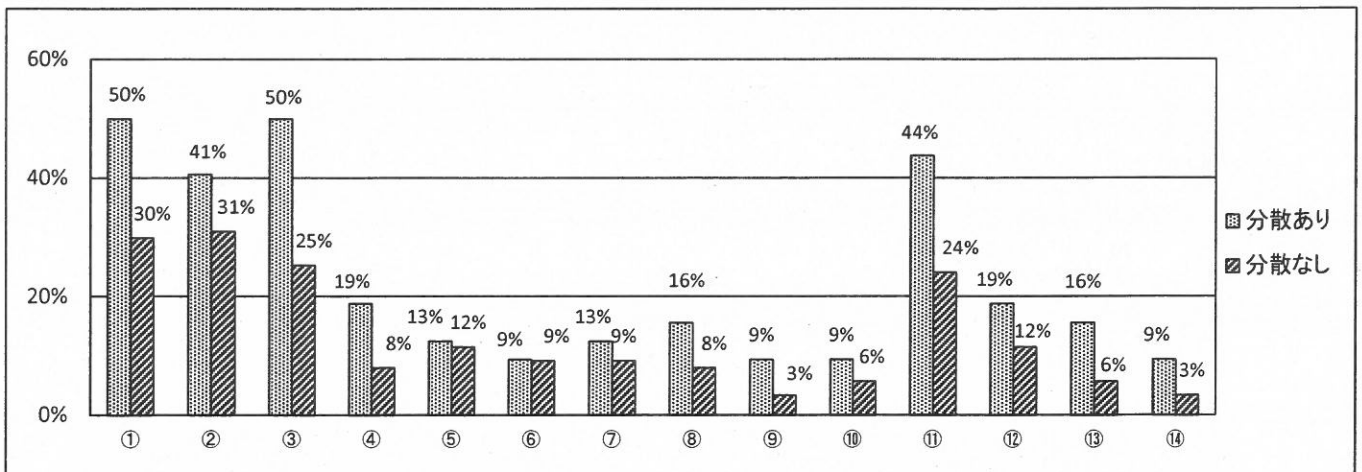
小学校の時のどのような経験が、中学校入学時の不安・悩みが小さくなったり、なくなったりすることにつながったと思いますか。(いくつでもかまわない)



**分離型と一体型の比較**



**分散進学についての比較**

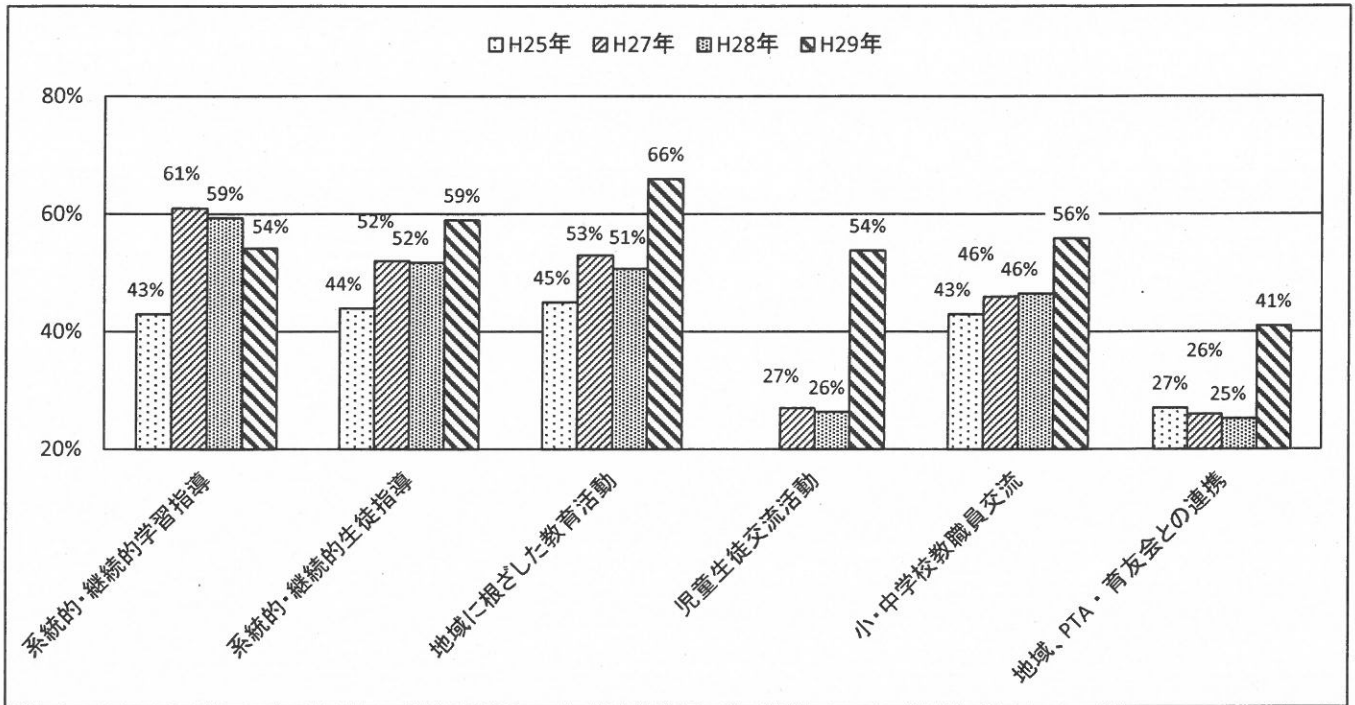


- |   |                            |
|---|----------------------------|
| ① 中学校体験入学で中学校生活の説明を聞いて                      | ⑧ 児童会と生徒会といっしょになって活動をしたこと  |
| ② 中学校体験入学で授業体験をして                           | ⑨ 地域清掃に中学生といっしょに参加して       |
| ③ 中学校体験入学で部活動体験をして                          | ⑩ 育友会（PTA）行事・地域行事で中学生と交流して |
| ④ 部活動交流をして（駅伝指導、吹奏楽部との合同練習等）                | ⑪ 中学校の先生の授業を受けて            |
| ⑤ 部活動以外で中学生が小学校へ来て交流をしたこと<br>（運動会補助、読み聞かせ等） | ⑫ 中学校の先生と交流したこと            |
| ⑥ 中学生の小学校での職場体験で中学生と接して                     | ⑬ ブロック小中一貫だよりや学校だよりを読んで    |
| ⑦ 中学校の学校行事へ参加して                             | ⑭ 学校のホームページを見て             |



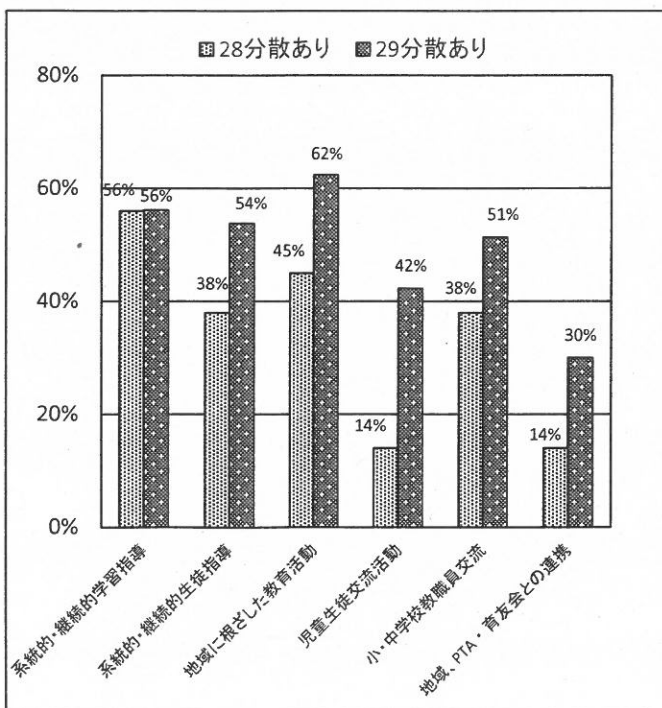
#### 4 「小中一貫教育のねらい・取組」について

肯定的回答割合は、経年比較（平成 25 年度と最近 3 年間の比較）で見ると、「系統的・継続的生徒指導」「地域に根ざした教育活動」「児童生徒交流活動」「小・中学校教職員交流」「地域、PTA・育友会との連携」の 5 項目で、大きく伸びています。これは、今年度からアンケートに具体的な取組例を示したことが、原因の一つではあると考えられますが、各学校、とりわけ分散進学をする学校での取組により、保護者の理解を得つつあることを示すものであると思われます。昨年度より数値が下がった「系統的・継続的学習指導」は、今年度の大きな課題として取り組んでいるところです。半数以上の保護者が「肯定的」にとらえてはいますが、取組内容の精査や啓発が必要であると思われます。



※小学生保護者の昨年度との比較（分散進学があるなし別）

分散あり



分散なし

